

民話「鶴の恩返し」より

「鶴女房」

あしやどうまん おおうちかがみ
芦屋道満大内鑑より

あべのせいめい
安倍晴明誕生秘話

「葛の葉物語」

2014. **12.21** (日)
開場 13:00 開演 13:30

埼玉県指定有形民俗文化財、三芳町指定無形民俗文化財

第13回 竹間沢 車人形 公演



会場…コピスみよし (三芳町文化会館) ホール

料金…500円 (一般)、300円 (小中学生)

チケット…コピスみよし (三芳町文化会館)

電話 049 (259) 3211

チケットショップファミリィダイエー三芳店

電話 049 (259) 9587

問い合わせ…コピスみよし (三芳町文化会館)

埼玉県人間郡三芳町藤久保1100-1

電話 049 (259) 3211

人形に命が宿る時、
物語が動き始める。

受け継がれる灯

竹間沢車人形保存会

ちくまざわくるまにんぎょうほぞんかい



①本番直前の最終確認 ②日頃の稽古風景 ③車人形についてのインタビューに答えて ④約15年前の保存会 ⑤舞台上でのリハーサル ⑥応募参加者を交えての練習 ⑦終演後の様子 ⑧本番前の舞台裏の和やかな様子 ⑨掛け合いの確認 ⑩公演に参加する子ども達 ⑪家元の前田益男さん

番組

内容

出演

寿式三番叟

ことぶきしきさんばそう

寿式三番叟は、舞台を清める舞で、その日の舞台を無事に務めあげられますようにと願いを込めて、舞台の幕開けに舞われます。悪霊を大地に踏み鎮め、豊作と健康を祈願する舞でもあります。

民話「鶴の恩返し」より 「鶴女房」

日本各地で語り継がれている民話の一つである「鶴の恩返し」。今回は、「朗読」と「人形遣い」の参加者募集をおこない、集まったメンバーに保存会が加わった形で上演いたします。民話の朗読という親しみやすく解かりやすい表現と、人形を操る子ども達の新鮮な演技にもご期待ください。

車人形教室

「車人形」の人形の構造と操り方や、本日の演目のみどころなどを紹介します。

あしやどうまんおうちかがみ 芦屋道満大内鑑より 安倍晴明誕生秘話

「葛の葉物語」

阿倍野の里

隠遁保名機屋の段

信太の森

狐葛の葉子別れの段

『恋しくば尋ねて来てみよ 和泉なる 信太の森のうらみ葛の葉』の歌で広く知られる「葛の葉伝説」を基に、初代竹田出雲が創った人形浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」の中の二場面です。

信太の森の狐が、命を救ってくれた阿倍保名の前に葛の葉姫の姿となつて恩返しに現れます。そして妻となり、童子丸という子どもも授かります。五年がたったある日、本当の人間「葛の葉姫」が両親とともに訪ねて来ます。狐の「葛の葉」は、子供を置いて信太の森へ帰る決心をします。

竹間沢車人形保存会



竹間沢車人形は、当時竹間沢村の神楽師前田左近が幕末の文久年間から明治初年にかけて、自ら車人形の頭や道具を作り、それまでの小さな人形を使つた人形芝居から車人形に切り替え、吉田三芳の芸名で、「吉田三芳一座」として、盛んに興行をおこなった人形芝居です。その後、息子の民部に受け継がれましたが、大正時代になり浪曲、映画、ラジオなどに押されて衰退し、大正十年頃に興行が途絶えてしまいました。その後、県の調査で前田家の納戸から車人形が発見されたのがきっかけで、昭和四十七年に五十年ぶりに復活公演が実現しました。それから四十数年、保存会は竹間沢車人形を守り継いでいます。

三代目 若松若太夫



昭和三十九年埼玉県所沢市に生まれる。國學院大学在学中の平成元年に二代目若松若太夫入門。平成二年に若松峯太夫、平成七年に若松小若太夫、平成十年に三代目若松若太夫をそれぞれ襲名する。平成十一年に二代目が没すると、翌十二年に東京都無形文化財保持者に認定される。現在は、板橋区を拠点に「郷土芸能伝承館」での説経節の会にて、説経節の伝承に努めている。

応募参加者のみなさん

今年の公演稽古に入るにあたり、広報みよし五月号にて「朗読」「人形遣い」の募集をおこないました。そこで集まった、朗読七名、人形遣い二名が約半年にわたり稽古をおこない、本公演「鶴女房」の舞台に立ちます。

コピスみよし (三芳町文化会館)

〒354-0004
埼玉県入間郡三芳町藤久保1100-1
電話・049(259)3211